

切れ目のない 医療・介護のネットワークづくり

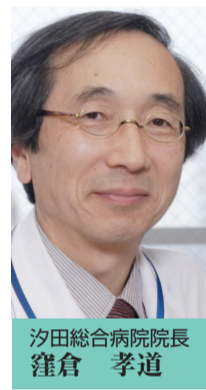
明けましておめでとうございます。昨年9月の総選挙で自民党が大敗し、民主党を中心とする新しい政権が生まれまし
た。新しい政権のもとで社会保障はどうなるのか、協会グルー
プとして急性期から入院、リハ、在宅、介護などの医療をど
のように展開していくのか、新年の抱負などについて座談会
で語っていただきました。

座談会参加者

- 司会／大間知哲哉〈横浜勤労者福祉協会専務理事〉
- 窪倉 孝道〈汐田総合病院院長〉
- 長浜 政博〈汐田診療所所長〉
- 片倉 博美〈社会福祉法人うしおだ専務理事〉
- 松尾ゆかり〈うしおだ総合ケアセンター事務局長〉
- 宮下 泉〈よこはま健康友の会会長〉



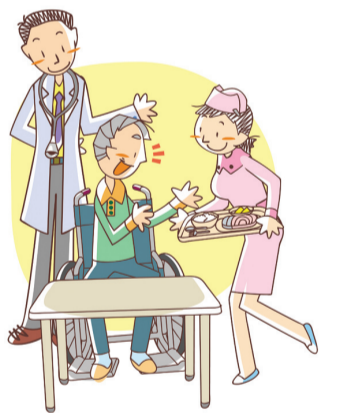
1 医療崩壊の中 医師・看護師確保で前進



汐田総合病院院長
窪倉 孝道

司会(大間知専務)：早速ですが、窪倉院長に昨年を振り返り、新年の抱負などを語っていただければと思います。

窪倉：昨年は、全国的には「医療崩壊」という言葉が医療関係者以外にもよく知れ渡った年だったと思います。そうした思いが政権交代の原動力となり衆議院選挙にも反映していると思います。しかし、政権交代した今でも医療崩壊は進行中で、救急、小児科、産科だけの問題ではなく、医療全体にすその広く広がっていると思います。病院の多くは赤字で、病院倒産も増えています。そうした中で、汐田総合病院では日本医療評価機構による最新版の病院機能評価を受け、おおむねの認定基準をクリア



3 3つの施設を一体化した 新汐田診療所



汐田診療所所長
長浜 政博

アップしてきました。
司会：協会理事会は、新しい汐田診療所を来年4月オープンを目指すとして決定しています。土地確保も大詰め

長浜：老朽化した汐田診療所の将来を考えたとき、移転あるいは建替が必要との結論となりました。新しい汐田診療所はヘルスクリニックと歯科診療所をあわせ三つの施設を一体化した診療所になります。新診療所建設委員会で医療構想を練っているのですが専門医療も一部残しますが基本的に家庭機能を重視して気軽に何でも相談でき全身管理を長期にわたり行い、健康を維持していくというような医療をめざしたいと思えます。また必要な病院などの、よ

を迎えてきました。長浜所長に新しい診療所の医療構想などをお話しいただければと思います。

2 包括評価する会計方式 DPPCの導入とは

窪倉：従来の入院会計は出来高支払い制度と呼ばれ、お薬・注射・検査など実施した項目の診療行為の点数を積み上げて計算するものでした。これに対して包括評価では、患者さまの病名や症状をもとに、厚生労働省から定められた1日当たりの診断群分類点数を包括的に医療費とし

アしました。これは、病院の機能が一定水準であることを第3者評価するもので、病院の水準維持と信頼獲得に不可欠のものとして5年ごとに受けているものです。そうした中で、看護師確保の成果が上がって249床の全病床稼働にこぎつきました。これまで、看護師不足でせつなく地域の財産であるベッドが開けなかったことを考えると、大きな前進だと思います。病院勤務医の不足が続く中で、当院で臨床研修を志す新卒医師を来年度も2名確保できたことも大きな成果だと思っています。
司会：病院は今年4月から医療行為を包括評価する会計方式(DPPC)を導入することになっていますが、この制度について教えてください。

て支払う新しい会計方式です。全国の急性期病院(病床)がこの会計方式に移行しており、急性期医療を実施する条件になる可能性があり、当院でも2年間の準備を経てこの制度の適応を申請することになりました。新病院の開院以来、さまざまな課題を乗り越えて病院は常にバージョン

4 今までの以上に 病院との連携を



司会：汐田総合病院との連携を重視して、安心してかかれる地域の皆さんの家庭医としての診療所と介護事業所をめざしていくことになりませんか。

長浜：そうですね、病院にはマンパワーもありますし検査、治療機器も充実していますからいざというときは頼りになる存在ですね。病院のベッドはいつも満床に近い状態ですので診療所の患者さんの入院が必要になった時に、スムーズに入院できる体制を整えるためにも、今まで以上に緊密な連携が不可欠だと思います。
司会：新しい診療所建設について、友の会の皆さんはおおいに期待していると思いますがいかがでしょうか。
宮下：診療所の建替えは地域や友の



よこはま健康友の会会長
宮下 泉

会の皆さんから今か今かと待たれています。土地が決まれば、具体的な診療所建設が表に出てきますから、会員宅をおおいに訪問し、班づくりや「出資金」の取り組みに励まなければなりません。昨年の「会員拡大月間」で「大腸がん検診」を呼びかけながら班を組織することができました。地域でもおおいに話題にし、この地域での民医連診療所の再生的



社会福祉法人
うしおだ専務理事
片倉 博美

は、2002年4月に認知症のグループホーム菜の花の家を開設以来、事業所を増やしてきましたが、

な取り組み、地域の活性化にも役立つような取り組みをしたいと思ひます。友の会が診療所の建設運動を大きく成功させる支えになるようがんばりたいと思ひます。

司会：高齢化がますます進み「超高齢化社会」と言われるような社会が現実となつてきています。地域で安心して住み続けられるためには、医療、介護、福祉の今までの連携が必要となつてきています。この連携を強化するために、汐田総合病院の中に「総合ケアセンター」という部署をつくりました。



より重要なものとなります。在宅療養支援診療所の強化とあわせて、居宅介護支援事業所と訪問看護ステーションの強化は、医療と介護の「要」となります。DPC病床の稼働が実

汐田総合病院のDPC病床の認可申請により、地域での受け皿となる今後の在宅医療や在宅介護の強化が

昨年4には財団法人より4つの在宅系事業所を統合し、職員数も常勤・非常勤を合わせると150名近くになりました。年間収益も3億5千万円規模となり、地域に与える影響も大きなものとなりました。昨年10月には、私たちの法人を物心両面にわたって応援してくれるサポーター組織「社会福祉法人うしおだを支える会」も発足しました。今年2月には、よこはま健康友の会やNPO法人ふれあい友の会との共催で「よくわかる介護保険の話」、3月には、認知症サポーター養成講座の開催を予定しています。

現すれば、医療依存度の高い利用者を在宅で支えていく体制が急務になります。社会福祉法人うしおだでは、昨年「中长期計画の答申」が示され、特別養護老人ホームの建設をはじめ

め、高齢者住宅の建設、認知症グループホームと小規模多機能居宅介護の併設施設の建設など事業の具体化に向けて検討が始まりました。そのために必要な人材の確保と育成が課題となっております。

長浜：汐田診療所から在宅部門が独立して病院近くに在宅クリニックとして移転しました。海側の患者さんも多くなります。新しい汐田診療所

6 新診療所でも在宅医療を展開



は主として海側を受け持ち徐々に多くの患者さんを受け入れるようにしたいと思つています。そのことで在宅クリニックが山側への更なる展開

が図られるようになり、両方の診療所合わせて協会の在宅医療の中核を担うことが出来ればと思ひます。

家で暮らしたい患者さんの思いに沿えるよう頑張りたい、と思つていますが、介護保険や生活保護などの

在宅クリニック、三ッ池訪問看護ステーション、そして老健やすらぎといった病院隣接の資源を中心に、地域関係機関との連携をより強め、ネットワークを駆使して病院のみで完結するのではなく、地域完結型の医療、介護の実践を目指しています。

また、病院にいると、退院がゴールに思えますが、実はその後の生活が基本です。そういう視点が重要だと思ひます。いろいろな意味で、地域の総合相談窓口、地域を巻き込んだマネージメントの要として、地域連携とケアマネージャー、ソーシャルワーカーが一つの部署で業務にあたることは地域の皆さんのニーズにたえやすいのでないかと思つています。今年はいよいよ一層の在宅支援強化と地域連携強化を目標にするつもりです。

社会保障制度の問題から、医療にかかることも出来ない患者さんや、在宅介護をしたくても仕事を止めると生活できない方、老老介護でぎりぎりなのにサービスが利用できない方、施設入所したくても経済的にまかならない方など、多くの困難を抱えた方に出会います。

そのためには何が求められているかというと、医療と生活との関係性についてグループ全体で認識を改めることではないかと思ひます。医療はあくまで生活の一部であつて、患者・利用者さんにとっては生活と生活の質がすべてなのです。だから、なるべく患者・利用者さんを生活の場で援助してゆくことこそが大切なのだ、ということをしつかり押さえ



横浜勤労者福祉協会
専務理事
大間知哲哉

司会：たいへんお忙しい中ありがとうございます。今年、汐田総合病院のDPC病院への移行、新汐田診療所建設準備の年になります。地域の皆さんの財産でもある病院、診療所、介護事業所が各自の役割を果たしながら、地域で安心して暮らし

なくてはいけない。こんな状態だから在宅に戻せないとか、逆に在宅では対応できないとか言つて、患者・利用者さんを施設に長く入所させてほしくない。施設しかないという選択や施設にお世話にならなくてはいけない時もあるでしょうが、あきらめずに生活の場での援助にこだわるとは必要なのではないかと思ひます。法人として医療と生活（在宅や介護）をつなぐ総合ケアセンターを作った意義はそうしたところにあると確信しています。

ていけるようなネットワークづくりに取り組んでいきたいと思つています。これは、私たちグループだけでなく、まわりにある医療機関、介護事業所の皆さんとも力を合わせて取り組んでいきます。友の会の皆さんには、今まで以上に健康を守る運動を広げながら、ご支援、ご協力をお願いいたします。

たなくてはいけない。こんな状態だから在宅に戻せないとか、逆に在宅では対応できないとか言つて、患者・利用者さんを施設に長く入所させてほしくない。施設しかないという選択や施設にお世話にならなくてはいけない時もあるでしょうが、あきらめずに生活の場での援助にこだわるとは必要なのではないかと思ひます。法人として医療と生活（在宅や介護）をつなぐ総合ケアセンターを作った意義はそうしたところにあると確信しています。

たなくてはいけない。こんな状態だから在宅に戻せないとか、逆に在宅では対応できないとか言つて、患者・利用者さんを施設に長く入所させてほしくない。施設しかないという選択や施設にお世話にならなくてはいけない時もあるでしょうが、あきらめずに生活の場での援助にこだわるとは必要なのではないかと思ひます。法人として医療と生活（在宅や介護）をつなぐ総合ケアセンターを作った意義はそうしたところにあると確信しています。

